

口太山・早春の植物観察会

令和7年4月27日(日) 8:30~15:30

高山の原生林を守る会

観察のポイント

1. 口太山

二本松市と伊達郡川俣町との境界線に位置する。穏やかな山容でナラとクリを中心とする典型的な里山。標高842.3 m。二本松市の登山口は針道登山口、川俣町の登山口は大綱木登山口。

2. 豊富な樹種

地形と共に変化する落葉広葉樹の種類の変化を観察しましょう。

3. 里山の春を彩る樹木と草本

多様な広葉樹の芽吹きと花が織りなすモザイク模様を観察しましょう。里山の春を彩る木々や草本にどのようなものがあるか観察しましょう。

観察のための豆知識 口太山の由来と伝説

口太山の由来は、「朽ち人山」が訛ったものだと言われ、その昔は姥捨て山だったといわれます。また、中腹にある乳子岩にはその昔、飢饉に見舞われたときに口減らしのために乳飲み子が捨てられました。捨てられた乳飲み子の泣き声は一晩中、里まで響き渡ったという伝承が残っています。いつしかその岩穴を『乳子岩』と呼ぶようになりました。岩穴には小さな観音像が置かれています。口太山に限らず高冷地の阿武隈山地は、かつては冷害による飢饉が度々襲った厳しい地域でした。

観察コース（歩行距離 3.0 km 標高差 425 m）

ゴミは必ず持ち帰りましょう！
植物の採取は厳禁です！！



8:30 道の駅 かわまた
8:45 登山口駐車場
9:00 大綱木登山口
9:40 猿滑りの滝
10:00 乳子岩
10:40 猿の首取り
11:00 迷い平
11:30 山頂(昼食) 12:30
14:00 登山口
14:05 ニリンソウ群生地
14:30 登山口駐車場
15:00 道の駅 かわまた

猿滑りコース紹介



猿滑の滝



乳子岩



猿ノ首取り



迷い平

口太山にはこんな伝説があります。その昔、藤原中納言実友がこの山にさしかかったところ、大猿に化けた山賊が中納言に襲いかかりました。その時、現れた白い鹿が加勢して、中納言を救ったといいます。その時、猿の首を取った場所が「猿ノ首取り」、中納言が逃げこんだ岩穴が「乳子岩」、猿が落ちた滝が「猿滑の滝」といわれています。

川俣町の大綱木登山口から登り始める。杉林をぬけ、しばらく歩くと沢筋には杉、山側は、クリ、ミズナラを中心とした心地よい広葉樹林。広葉樹の芽吹きを楽しみながら登ると、右手に猿もすべるといわれる「猿滑の滝」。ほどなく「乳子岩」との分岐に到着。ネジキが目につくやや急なつづら折れの広葉樹の森を辿ると、コース唯一の岩場「猿の首取」。

ミズナラなどの広葉樹の平坦地をしばらく進む。このあたりは「迷い平」とよばれ、その名の通り、ササが茂った季節には道がわかりにくい。ケヤマハンノキやケヤキなどの高木が目を引き。ヒトツバカエデの若葉を愛でながら最後の登りをやりすごすと、やがて口太山山頂に着く。

広場のような山頂に三等三角点がある。遠く、蔵王連峰、吾妻連峰、安達太良山の連なりが望まれる。間近には女神山や木幡山など阿武隈の山々が望まれる。

口太山の樹木 ネジキとトウゴクミツバツツジ

ネジキ

(*Lyonia ovalifolia* var. *ellipticallex macropoda*)

ツツジ科ネジキ属の落葉低木。日本固有種。低山の尾根に自生し、樹皮全体に入る縦皺が、成長に伴って螺旋状にねじれることからネジキと命名された。葉は黄緑色で長卵形、先端が少し突きだし、縁は全縁である。有毒成分(グラヤノトキシン)を含み、摂取すると嘔吐やめまいを引き起こす。秋には黄色から濃い橙色に紅葉する。花は6月に前年の枝から横に総状花序を出す。等間隔で下向きに白いつぼ形の花を多数咲かせる。冬芽は赤色でほぼ無毛、卵形で芽鱗は2枚。



トウゴクミツバツツジ

(*Rhododendron wadanum*)

ツツジ科ツツジ属のミズナラ林からブナ林にかけて生育する落葉低木。吾妻・安達太良山系では春から初夏にかけて最も早く咲くツツジである。葉は枝の先端に3枚の葉を輪生する。葉形は菱形を縦に伸ばしたような端正な形をしており、先端は尖る。葉の縁には細かい鋸歯がある。葉柄には毛が密生する。花は頂性。花色は、蕾の時期は濃紅紫色の独特の色合いである。開花すると明るい赤桃色となる。花冠は深く5裂し、上部裂片に斑点が着生する。雄しべはムラサキヤシオ、イソツツジと同じで10個ある。ヤマツツジ、レンゲツツジは5個である。



口太山のカエデ



ヤマモミジ



イタヤカエデ



ウリカエデ

ヒトツバカエデ

(*Acer distylum* ムクロジ科カエデ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林の溪流周辺や残雪がたまるやや湿った林内に植生する落葉広葉樹。日本固有種。雄性同株で同じ株に両性花と雌しべを欠く雄花を付ける。これはハウチワカエデ、オガラバナと同様である。

カエデでは雌雄同株からミネカエデ、ミツデカエデの様に雌雄異株の方向へ進化しているとされているので、ヒトツバカエデはカエデの始原的な性質を保有していると言えるかもしれない。



カジカエデ

(*Acer diabolicum* ムクロジ科カエデ属)

吾妻・安達太良連峰の主に中通り側のブナ林下部からミズナラ・ケヤキ林に植生する落葉高木。日本固有種。オオモミジと同様に主として太平洋側に分布する。そのため、吾妻連峰は会津側と分布の分水嶺となっている。

カエデ類は雄花と両性花を持つものが多いが、カジカエデは雌雄異株で雄株と雌株がある。雌雄異株のカエデには他にウリハダカエデがある。



口太山の早春の花



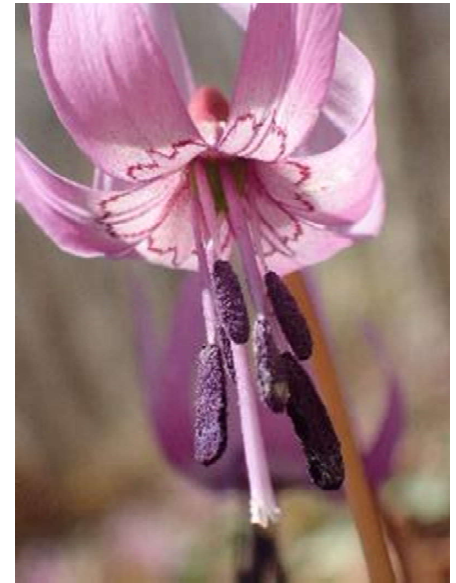
ニリンソウ



トウゴクサイジン



ヒトリシズカ



カタクリ



ユキザサ



アケボノスミレ



エンレイソウ



ホンドリス



ヒナスミレ

ニッコウネコノメソウ

ユキノシタ科ネコノメソウ属の多年草。日本固有種。イワボタンの変種とされ、葯の色で識別できる。イワボタンは黄色い葯を持つのに対し、ニッコウネコノメソウは暗紫色の葯を持つ。ニッコウネコノメソウの萼片は緑色から黄緑色で、水平に近い形で平開する。ヨゴレネコノメソウは関東以西、ニッコウネコノメソウは本州東北地方南部から中部地方の太平洋側山地の湿地に分布する。会津西部から日本海側にはホクリクネコノメソウが自生する。ホクリクネコノメソウは雄しべがガクから突き出る。



メモ